

新型コロナ感染施設で 実際に働いた 私が伝えたい事

社会福祉法人こころの家族
故郷の家・神戸
介護課長 東 真也

本日の内容として

- ・感染者が発生した際
- ・ゾーニングに関して
- ・感染予防対策の実際
- ・行政機関との調整(神戸市)
- ・PCR検査(唾液によるもの)
- ・長田区の取り組み

知らないうちに、拡めちゃうから。



STOP!

感染拡大

COVID-19

感染者が発生した際

陽性との連絡が入ったのが9月4日(金)であり、その職員が働いていたユニットの職員は5日(土)から出勤せず、自宅待機となった。

5日に保健所(江東区)による濃厚接触者の特定

7日に保健所より職員・ご利用者に対してPCR検査実施。職員は施設の庭で実施した。

江東区の保健所は江東区内に住んでいるご利用者・職員などを実施し、江東区以外の職員はその住んでいる保健所が連絡し、PCR検査を実施する。＊いわゆる所轄管轄内

8日より順に結果の報告が入り、ご利用者は全員陰性であり、江東区内の職員も陰性であるが、濃厚接触疑い・健康観察者として自宅待機となる。

11日の時点で職員全員が陰性であり、15日までの自宅待機、16日までは感染予防の徹底の指示が保健所よりあり。

後方支援・衛生用品

9月5日に各事業部に連絡が入り、何かできることは考え、衛生用品などを各事業部より送り、後方支援を実施。(ガウン・マスク・アルコール消毒など)

また江東区より衛生用品など、保健福祉部長自ら運びに来てくれるなど支援はかなり手厚いものであった。

その協力で衛生用品が不足するということはないかった。



職員体制について

2ユニット(1ユニット7～8名程度の職員配置)の職員が
全員待機となり、各部署より応援あり。

職員の配置としては

- ・ケアハウス施設長(看護師)
- ・介護課長(東京・神戸)
- ・相談員
- ・ショートステイが中止となったので、ショートユニット職員
など計10名程度で、2ユニットの勤務体制に変更。
勤務も必要最低限の勤務となる。(早出・遅出・夜勤)
医務室の看護職員はそのユニットには入らず、私とケアハウス
施設長が看護業務を兼任。どちらかが必ず勤務に入る。
主に医療的なこと(吸引・BS・注射・排便コントロールなど)
何かあれば医務室とPHSで連絡をとり、連携する。

ゾーニング

ゾーニングは以前からは考えていたが、いざ実際になると予想もしていない事や想定外の事があった。保健所の指導の下、ゾーニングの再編成を実施した。

* 注意点として

- ・ゾーニングの汚染区域では職員の休憩などはできない
- ・職員のトイレなどはどうするか？
- ・他の職員や利用者(接触者以外)と交わらないように動線を考えないといけない
- ・更衣室なども別にする
- ・防護服の着脱場所などをどうするか

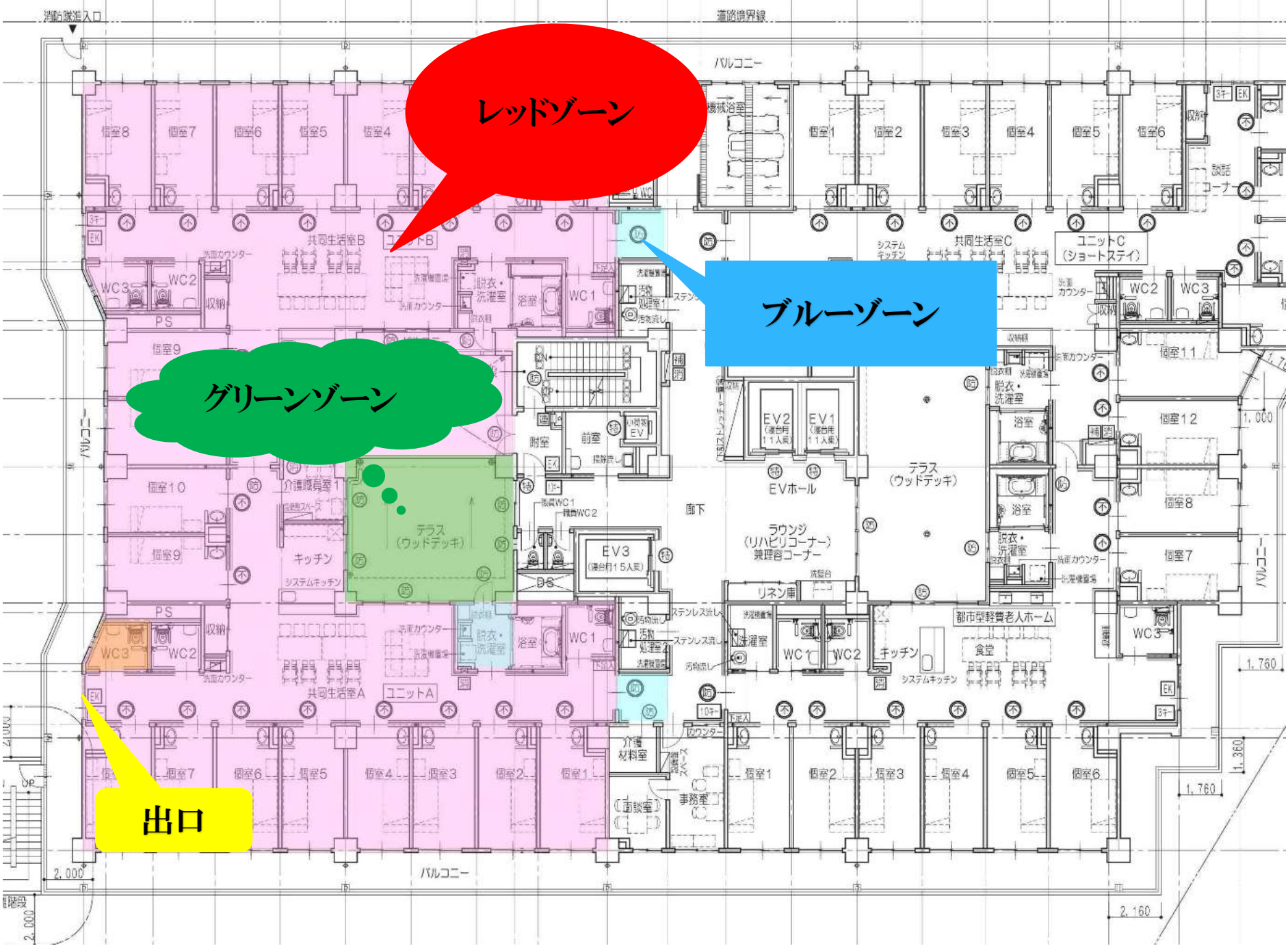
などなど実際にその状況になってみないとわからない状況です。

レッドゾーン

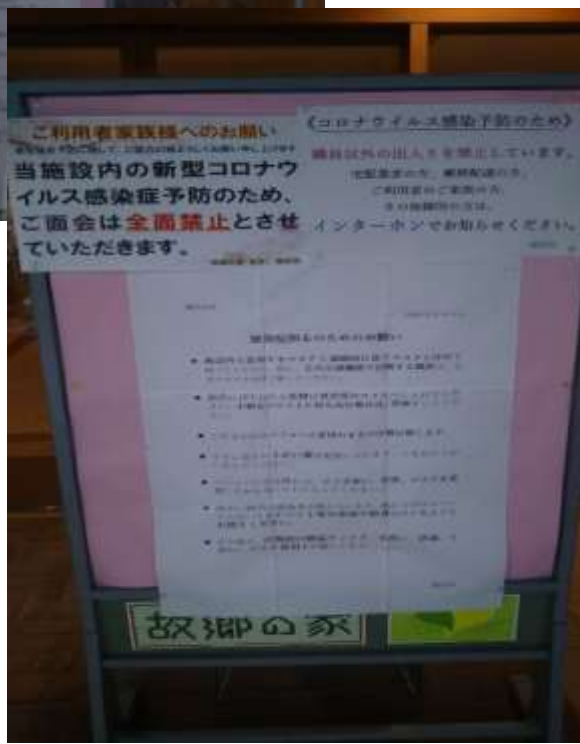
ブルーゾーン

グリーンゾーン

出口



いざ出勤！！



更衣室は1Fの相談室をその担当のユニット職員だけの
更衣室にする



ブルーゾーン



感染予防対策

フローアー内での感染防護服

手指衛生

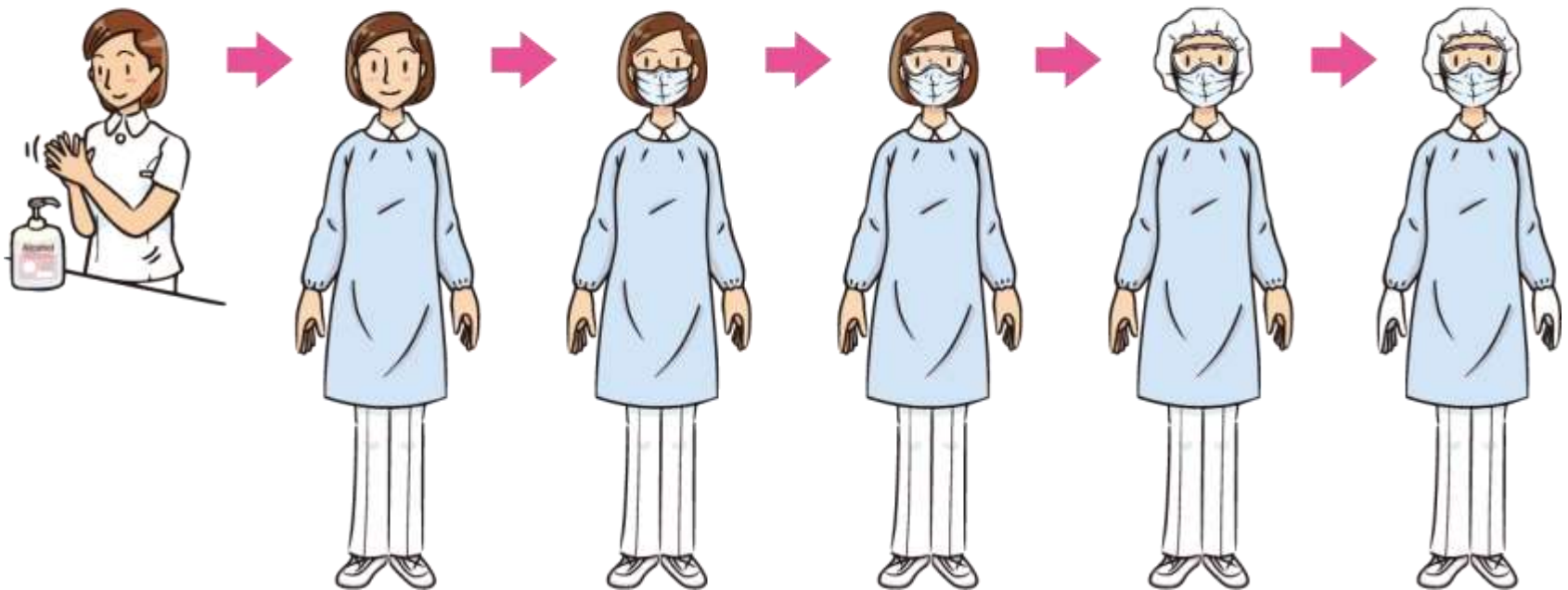
ガウン

マスク

ゴーグル・
フェイスシールド

ヘア
キャップ

手袋



ユニット内

ユニット内では感染防護服で常にケアを実施。

食事に関しては使い捨て食器は使用しないで良いですが、使用したほうがわかりやすいかもしれません。

温冷配膳車はブルーゾーンまで持ってきてもらい、ユニットの職員が運搬する。実際は配膳車を使用せず、配膳専用の台車が望ましいかもしれない。



職員の休憩

職員の休憩場所を確保しておらず、急遽テラスにテントを設置し、そこが職員の休憩場所となる。

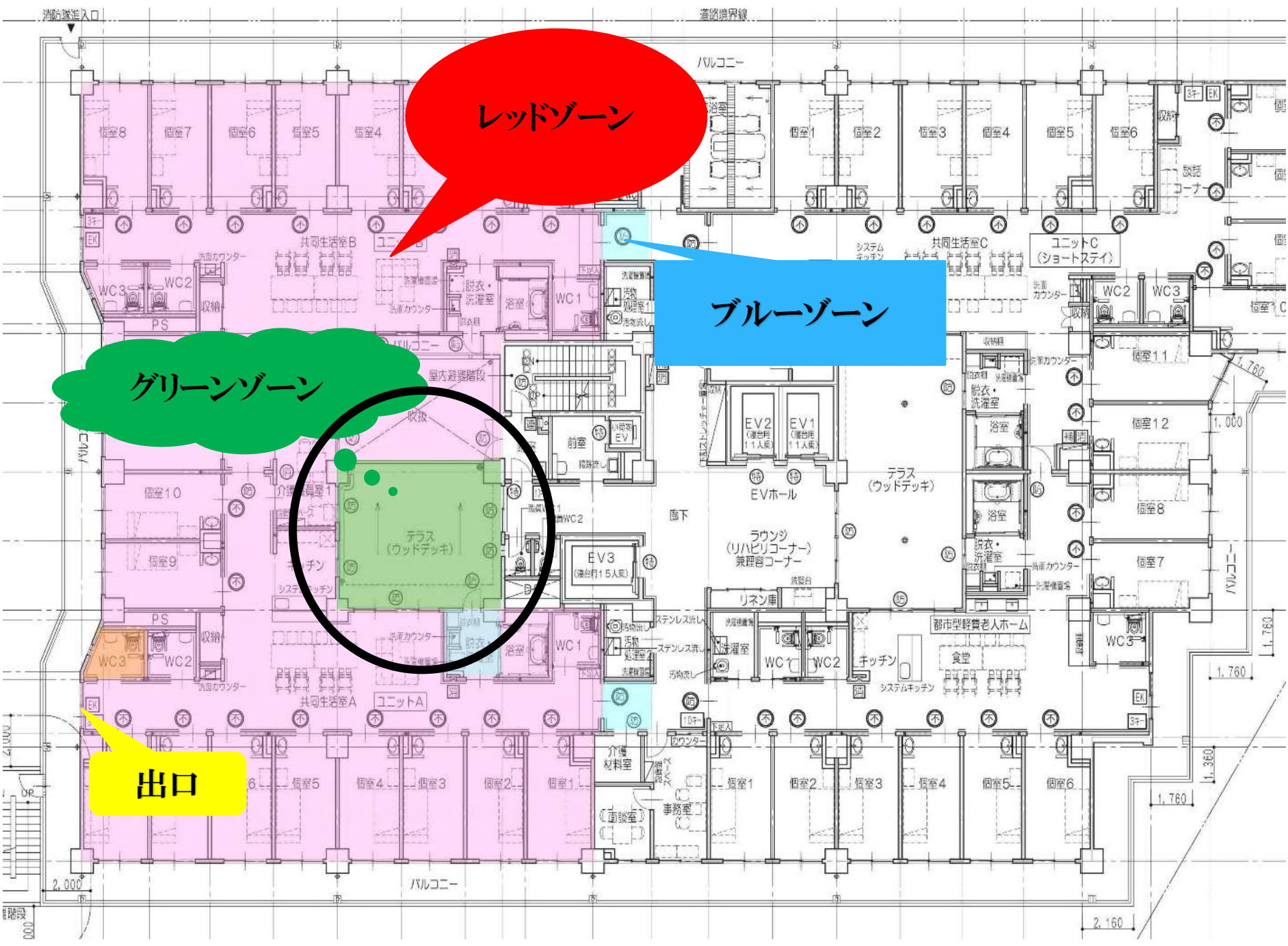


レッドゾーン

ブルーゾーン

グリーンゾーン

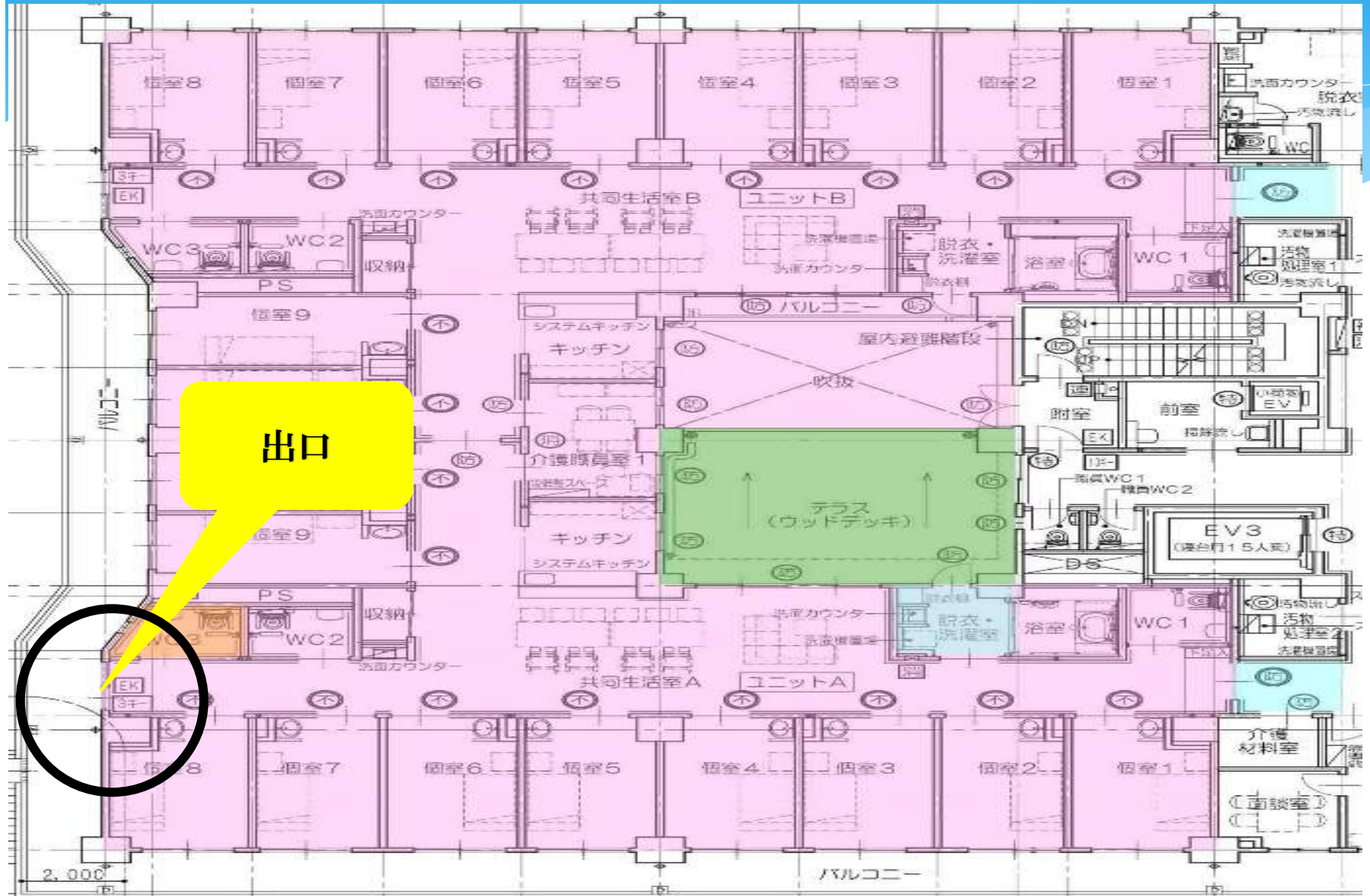
出口



浴室でガウンの着脱と手指衛生を実施する。



勤務終了時



勤務終了時はベランダへ出て、防護服の着脱。



ここから1Fへ降りて
更衣室まで行きます

応援体制について

応援体制については、まずは施設内で職員を選定
今回はショートステイを休止したので、その職員が特養勤務に
入り、困難な場合は法人内の他事業所に応援要請
それでも職員体制を構築し、人員不足の場合は区内施設
からの応援要請をするとのこと。

＊江東区は事前に応援要請のリストを作成していた

しかし実際に現場に入り感じたのは、区内施設からの応援だと
どこまで業務を教えないといけないのか？

ただでさえ職員が不足しているのにどこまで教えないといけない
のか？

実際に応援職員で勤務に入る職員はある程度の経験年数や
状況に柔軟に対応できる職員が望ましい。

行政より

今回、江東区の保健所が協力的であり、衛生用品などの支給なども早かった。

- ・ゴーグル160個 ・フェイスシールド150個
- ・消毒液20ℓ ・エプロン280枚 ・手袋M・L 各1000枚
- ・マスク400枚 ・ドライタオル(清拭用)400枚 ・キャップ400枚
- ・同居人がいる濃厚接触職員が滞在するマンション・ウィークリーマンションの紹介やホテルの情報提供あり。
- *ホテルは一般の方と交わるためお勧めはしないと。
- ・PCR検査が受けられる医療機関のリスト
- ・防護服の正しい着脱方法のレクチャー

神戸施設の事案

80歳代の女性

11月13日に近隣の病院から退院。(骨折で入院)

11月20日の朝に発熱と多量の嘔吐があり、その日に主治医の医院に受診。レントゲンでは肺炎所見はなく、尿路感染の可能性があり、**念の為にPCR検査を実施**。抗生剤の処方があり、その後は発熱なく経過し、その日のみ居室対応する。

11月23日の12時に主治医から連絡があり、PCR検査の結果陽性であったと報告あり。

すぐに神戸市高齢福祉課と保健所へ連絡する。

*** 祝日であった為に高齢福祉課は通常の連絡先とは異なるので注意してください。**

陽性者が出た際の流れ

まずPCR検査を実施した医療機関や主治医より神戸市に感染者発生届を提出し、そこから神戸市から所轄の保健所へ連絡があり、そこから初めて保健所から各事業所に連絡があります。

まずは医療機関や主治医などから発生届を提出してもらうことが重要です！！

全く保健所から連絡がこないというのは発生届の提出などが遅れている可能性があります。

陽性者が出た際にすること

- まずはご利用者を隔離(どこへ隔離するのか?)
- 感染予防行動の確認と徹底
- 各管理者や法人本部など関係機関へ報告(建物内の事業所など)
- 主治医や医務室などに報告(バイタル測定＊特にSPO₂！！)
- 職員で消毒作業を実施する。
- ショートステイなどの調整
- 入居者の家族へ連絡
- 関連職員に連絡する。(同フロアーや同ユニットなど)
- まずは誰が指揮系統などをとるのか？

など実際になってから、気付く点も多いので日頃から確認しておくことが大切です。誰が何を実施するのかあらかじめ決めておくことも必要です。

濃厚接触者の特定

保健所が来る前に以下の準備

- 陽性者の情報・状態
(発症した際の状況やその前後の状況や状態など)
- 職員の勤務表(その方と関わった全ての職種)
- 施設の見取り図(フロアマップ)
- 職員の健康管理表
- 施設での感染予防行動
- 陽性者が使用した共用部分の確認(トイレやお風呂場など)

* ポイントとしてはそのご利用者とどれぐらいの間接していたのかが大切です。

保健所の聞き取りには現場を把握している職員などが同席したほうが良いと思います。

12/3 ~ 12/18 附部有加入既
8/24 ~ [redacted] 既既 [redacted] % [redacted]

[redacted] 承 (56. [redacted])
(要介護4・89歳) [redacted]

経過記録
11/13(金) [redacted] 退院

11/20(金) AM 5' 嘔吐99量 KT 37.6 P 95 R 12/100
AM 7:30 KT 38.2 P 97 R 14/16
8' 呼吸器(錠剤) 150cc
午前 KT 36.9 P 90 R 8/1 SpO2 95%

11/21(土) [redacted] 発熱
11/21 ~ 12/30 [redacted] 呼吸器
PCR陽性(退院)

11/23(月) 12' [redacted]

Medical charts and documents pinned to the board, including:

- 11/20(金) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 11/21(土) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 11/22(日) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 11/23(月) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 11/24(火) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 11/25(水) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 11/26(木) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 11/27(金) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 11/28(土) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 11/29(日) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 11/30(月) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/1(火) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/2(水) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/3(木) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/4(金) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/5(土) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/6(日) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/7(月) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/8(火) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/9(水) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/10(木) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/11(金) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/12(土) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/13(日) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/14(月) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/15(火) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/16(水) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/17(木) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/18(金) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/19(土) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/20(日) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/21(月) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/22(火) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/23(水) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/24(木) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/25(金) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/26(土) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/27(日) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/28(月) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/29(火) 経過記録 (Continuation of notes from the left)
- 12/30(水) 経過記録 (Continuation of notes from the left)

陽性者の対応として

陽性者に関して、11月23日の時点で医療現場がひっばくしており、すぐに入院はできず感染予防行動の徹底を実施。

先に述べた感染防具にて対応。

陽性者の隔離対応としては

- ・誰が対応するのか決める！その方しか対応しないように！
- ・入り口と出口を分けて、一方向で！
- ・出る際は動線を確保し、他の職員とは交わらず手洗いができるように！
- ・感染性廃棄物の設置
- ・バイタル測定物品などはその陽性者専用の物を準備
- ・消毒物品 など

＊呼吸状態や体温など十分に観察する必要がある。

実際に入院調整となった際にはその方の状態を保健所の方に伝える。特にSPO₂が重要です！！

結果陽性が判明してから、12時間後に調整がつき救急搬送となる。
搬送方法などは保健所の方と十分に連携をとって実施してください！

濃厚接触者と健康観察者

今回の濃厚接触者の職員に関しては20日の嘔吐した際の介助に関して適切な感染防具なしで介助を行ったため。

また食事介助の際にリハビリを実施していたため。

＊スタンダードプリコーションが実施できていない。

食事なのでマスクを着用していない状況で30分以上接していたため。

など様々な状況を考えて、濃厚接触者を特定していきます。

健康観察者に関しては、多床室の同室のご利用者はほぼ確定
食事の際に同席の方など特定していく。

健康観察者についてはそのフロアー全員が対象になります！！



健康觀察網

※1日1回体温測定を行い、発熱・咳・倦怠感（だるさ）等の症状がないが確認してください。気になる症状が現れたときには、保健センターへ連絡してください。
健康観察は、患者との最終接触日から14日まで続行してください。

优惠

[illegible]

健康観察者について

先にも述べたようにほとんどの方が健康観察者となるので、何か医療機関など受診する際などは保健所に連絡する必要があります。ご利用者はもちろんですが、職員もです！！

職員にも必ず！医療機関受診する際は報告してもらうようにして下さい。

- ・ショートステイのご利用者に関して、退所したいという希望があればご家族・CMの方に十分に説明する必要があります。
- ・毎日の健康観察はできますか？
- ・何かあればすぐに担当の方に連絡する
- ・医療機関を受診する際は必ず保健所に連絡してもらうなどそのことをしっかりと説明したうえで、どうするのか考えてもらうなどは必要だと思います。

PCR検査を実施

PCR検査をそのフロアの職員全員を施設負担で実施しました。

* PCR検査に関して、注意してもらいたいのは時期も必要だと思えます！！あくまでも現時点なので、保健所とよく相談し、いつの時期に実施するのが効果的なのかよく考える必要があります！！その事を十分に考えて、実施するのか考えなければいけません！！

今回は唾液のPCR検査を実施しました！！

唾液に関して、広口の滅菌容器(50mlチューブ等)に1～2ml程度の唾液を医療従事者の管理下で被検者が自己採取する

* 飲食等の後、歯磨きを行った後、最低10分以上後に採取



クラスター発生

23日の陽性利用者の同室の方が27日の夜間帯から倦怠感あり
28日の朝から微熱と倦怠感著明にあり。

同日に主治医より抗原抗体検査を実施し、すぐに陽性反応あり。
かなりウィルス量が多いと感じられた。そこから夕方に救急搬送。
その後同室の方と違う居室の発熱者4名PCR検査実施し、
全員陽性であった。

保健所よりフロアー全員のPCR検査(行政検査)の実施の指示あり。12
月1日にご利用者30名のPCR検査実施し、12月2日に
11名の方が陽性者と連絡あり。計17名の陽性者がいた。

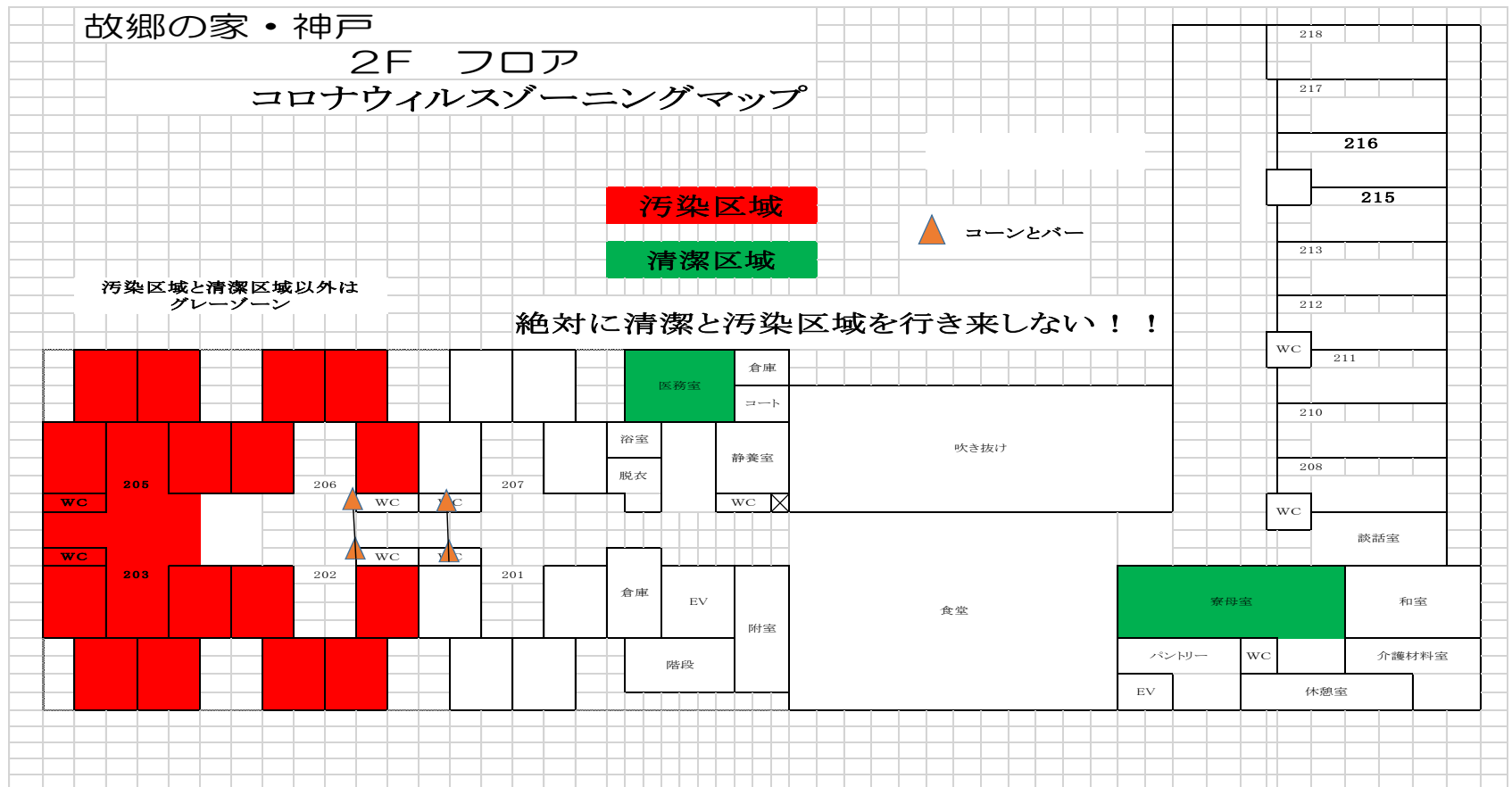
＊その時の心境はかなり絶望的なものであり、看護師全員や
スタッフなど涙している人が多かった。

現場で指揮していた私自身もショックが大きかったが、しかし
これからの事を考えることを優先にして、スタッフ全員に声をかけて
いき、気持ちだけは落とさないように精神部分のサポートなどを実施した。

ゾーニングの実施

陽性者がはっきりした事でゾーニングを実施。

保健所の指導のもと、奥にある多床室を陽性者全員の居室に変更する。



ゾーニングの実際



感染性廃棄物

* 私が一番大変だったのは、感染性廃棄物の処理をどうするのかということ。清潔区域以外で出たゴミは全て感染性廃棄物で処理しないといけない！！

これがかかり経費がかかるし、おそらくそれだけの量の感染性廃棄物の容器を持っているところは少ないと思います。
また使い捨て食器などでかなり量が排出されます。



まとめ

- 応援職員のある程度の基準(経験年数や資格・柔軟性など)
どこまで業務など教えたりできるか？
- 衛生用品の確保
- **ゾーニングの見直しやゾーニング訓練**
- 経費負担(濃厚接触職員や特養勤務職員のホテルなどの滞在費など)
がかなり大きい
- 職員や応援職員がその期間業務に従事し、その後いつ
PCR検査や抗原・抗体検査を実施するのか？タイミングも重要！！
陽性だった場合の保障などはどうするのか？労災？
- 実際にご利用者に対する精神的負担はかなり大きくいつもと
違う環境で職員が勤務し、とまどっているご利用者もいた
- 陽性者が出たという事で濃厚接触者ではない職員の子供が保育園
に登園できないという事案があった。
- 委託給食業者より使い捨て食器を使用したいと言われたが、その費用
がかなり負担であった。
- 噂などが広まり、実際と違う情報が流れていたのでは、しっかりと事実確認を
してほしい
- 医療現場の状態によりすぐに入院できない状況もあるので、1～2日は陽性者の
方を支援していくというスタンスでいえないといけない
- 同フロアのショートステイの方を利用したご利用者が複数の事業所を利用していたために
トラブルとなることがあったので、しっかりと連絡体制の構築が必要である。
- 普段から保健所の方や関係機関との顔の見える関係づくりなどの調整は必要です！！

長田区の取り組み

新型コロナウイルス感染症が流行していた3月に長田区医療介護サポートセンターと協働し、長田区医師会・長田区役所・長田区内の特養6事業所と情報交換会を実施。6月・9月にも情報交換会を実施し、現在は長田区医師会・長田区役所・長田区医療介護サポートセンター・長田区内特養6事業所での新興感染症等による協力に対する要綱を構築する。

その後4月にサポートセンターや神戸市健康局保健所予防衛生課と共に特養における感染予防対策を構築し、老人福祉連盟に情報提供を実施。

その後、在宅のほうの感染予防対策にも長田区役所・サポートセンターと取り組み、12月にヘルパー事業所による感染予防対策の研修を実施する。

最後に！！

ご清聴ありがとうございました！！

この事態が早く終息するように願っていますし、皆様がこの研修を聞いて、少しでもお役に立てれば幸いです。こんな時だからこそ人の優しさを感じられますし、人とのつながりを大切に思います。

至らない点が多かったと思いますが、最後までご清聴いただきありがとうございます。

今回の件に関わってくださった皆様に感謝をもうしあげます。

感謝